

## 2014 年度事業計画（案）

1. 日本信頼性学会編『新版 信頼性ハンドブック』を用いたレクチャーシリーズの開催  
『新版 信頼性ハンドブック』をテキストとし、第 3 回以降のレクチャーシリーズを開催し、会員へのサービスを図るとともに、信頼性・安全性の技術の啓蒙・普及に努めます。

### 2. 2015 年信頼性国際会議 MMR-2015 開催への準備とその周知

2015 年 6 月 1 日～4 日の開催に向け、より多くの学会よりの参加者と横の連携が密になるように準備を行います。特に、Web 並びに種々の研究集会にて周知を徹底し、開催準備を行います。

### 3. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めて行きます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

#### 1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。学会誌の発行は学会の重要な事業の 1 つですが、発行費用に会費収入の半分近くを要しており、特集号の電子化に続き、発行回数を見直しを検討します。これは、4 月に始まった消費税増税の影響を鑑みて、運営基盤の強化を図ろうとするものです。現行の発行回数は、同種同規模の他学会と比べて大きく、見直し後も十分なサービスレベルを維持できるものと考えます。

#### 2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム（レクチャーシリーズ）、見学会、研究会等の活動を活発に行い、本学会の存在を広く認知させます。

#### 3) 法人格取得の準備

2007 年度の総会で決議されました、一般社団法人化を検討します。協力団体である日本科学技術連盟が 2012 年 4 月に一般財団法人へ移行したことを受け、昨年度に引き続き本学会の一般社団法人化の検討を行います。

#### 4) 見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催の見学会を実施します。

#### 5) 関係学会等との協力

経営工学関連学会協議会（FMES）第 30 回シンポジウムは、日本品質管理学会を幹事学会として、2014 年 7 月 11 日に開催される予定です。本学会は、開催案内広報や参加者確保の面で支援いたします。

安全工学シンポジウム 2014 の開催及び横幹連合の活動に例年通り積極的に協力します。

#### 6) 国際協力・規格

2014年8月に中国・広州にて開催の、第10回ICRMS (International Conference on Reliability, Maintainability and Safety) に鈴木前会長がKey Note Speakerとして参画し、国際会議の盛会に向けて支援していきます。また、対外活動の推進と会員への適切な情報提供に資するべく、国際協力及び規格に関して、活動の内容や方向性を検討いたします。

さらに、2014年8月21日～23日に札幌の北海学園大学で開催される 6th Asia-Pacific International Symposium on Advanced Reliability and Maintenance Modeling

(APARM2014) に協賛します。APARM2014では、名誉大会委員長を鈴木前会長が、大会委員長を山本理事が、プログラム委員長を辻村理事が務めます。また、鈴木前会長が基調講演を行います。このシンポジウムでは80件以上の発表が予定されており、多くの当学会会員が参加します。

#### 4. 広報委員会

広報委員会活動の主旨は、信頼性に関する研究者や技術者へ、本学会を周知するとともに、本学会から信頼性技術情報を効率よく効果的に展開する機能を果たす事と考えます。その具体的活動として、2014年度は以下の内容を計画しています。

##### 1) 各種委員会の Web 会議推進と規程整備

昨年、Web 会議に必要な環境情報等を確認できましたが、実際にこれを利用して会議を運営するための規程の整備を進めます。特に、守秘義務を要する事案の審議への利用の際の必要事項など明確にしていきます。

##### 2) 学会ホームページを活用した情報交流の活性化

ホームページに常時掲載する内容の充実化を図るだけでなく、実際に現場の技術者が抱えている問題にリアルタイムで技術支援できるような活用事例を増やしていきます。

##### 3) 各種主催、共催、協賛行事開催時の学会 PR ブースの設置

学会活動、各研究会活動の PR ならびに参加を呼び掛けるブースの運営を検討します。ホームページ上で処理できない技術相談にも応じるなど、研究者、技術者との Face to Face(F2F)の交流を図ります。

#### 5. 編集委員会

1) 編集委員会で検討した 2014 年度の年間計画 (案) を下表に示します。5月号、10月号は特集号を予定しています。

2) 学会誌の電子版による発刊に関して準備を進めます。

まず、2014年度は経費削減効果を確かめるために「特集号」(5月号、10月号)を電

子化にて発刊いたします。

2015年度からは経費削減効果及び学会員の皆様からの要望を検討のうえ、発刊する全ての学会誌を電子化する検討・準備を進めます。

以上、電子化のメリットを生かした、より充実した学会誌に向けて検討してまいります。

- 3) 2015年度からの学会誌の発刊を年6回(奇数月発刊)とする検討を行います。それに伴い、易しい記述・見やすさ・話題となるテーマなど内容をこれまで以上に充実させることで学会員の皆様へのサービス向上を図ります。

発行月	種類	テーマ
2014年	4月号	ニュース 信頼性ニュース【ホームページに掲載】
	5月号	特集 製品・システムの保全性【電子版】
	6月号	ニュース 信頼性ニュース【ホームページに掲載】
	7月号	展望 組込みシステムの信頼性・安全性
	8月号	展望 システムの安全性と電子部品の故障率
	9月号	展望 高信頼な通信システムの要素技術と応用(仮)
	10月号	特集 通信ネットワークの高信頼化技術【電子版】
	11月号	展望 宇宙工学における信頼性技術
	12月号	ニュース 信頼性ニュース【ホームページに掲載】
2015年	1月号	展望 未定
	2月号	ニュース 信頼性ニュース【ホームページに掲載】
	3月号	展望 パーソナルケアロボットの安全性(仮)

## 6. 論文審査委員会

引き続き、掲載論文数の増加と共に、投稿論文審査のさらなるスピード化と質の向上をめざして取り組みます。

- 1) 投稿論文数増加対策の一環として、Web投稿のための調査を行います。
- 2) 論文審査の迅速化のため、電子メールなどを活用していきます。
- 3) 掲載論文数の増加による信頼性学会誌からのより多くの情報発信を目指します。
- 4) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように引き続き検討します。
- 5) 高木賞選考審査を行います。

## 7. シンポジウム実行委員会

本年度は以下のとおり開催の予定です。

- 1) 第22回春季信頼性シンポジウム  
日時：2014年6月23日(月)  
場所：一般財団法人日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部ビル
- 2) 第27回秋季信頼性シンポジウム  
日時：2014年11月19日(水)  
場所：一般財団法人日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部ビル

発表論文の募集要項等は例年に準じます。詳細は後日決定後、お知らせします。

## 8. 研究会運営委員会

これまでに、研究会運営委員会内規、細則等の改訂による研究会活動の統一化、またホームページ更新などによる研究会活動の活発化などについて検討を行ってきました。これらにつきましては引き続き検討を続ける予定です。また前年度に実施した、学会法人化を見据えた各研究会活動に関する現状調査に対し、より詳細な調査を行い、学会が法人化した後でも活発かつ健全な研究会活動が継続できるような体制を整える予定です。また、新たな研究会の設立に関しても学会誌やホームページなどでPRを続ける予定です。

各研究会の活動予定を以下に記します。

### 1) IEC ディペンダビリティ規格研究会（主査：山内 慎二）

#### (1) IEC 60300-3-12(Ed.2):Integrated logistic support(ILS)の調査研究（継続）

- ① 前年度に続き標記の規格の審議を進めます。（審議完了予定：平成27年3月）
- ② 関連規格 IEC 60300-3-14 及び IEC 60300-3-16 の調査を並行して進めます。
- ③ IEC 62508, Guidance on human aspect of dependability の概要を調査し、新しい研究対象として適切かどうかを判断します。

#### (2) IEC 60300-3-10: Maintainability 及び RCM,Ed.1 の訳文書及び Ed.2 の訳文書及び解説書の纏めを引き続き実施します。

#### (3) JIS 原案作成委員会及び IEC/TC56 信頼性専門委員会への協力を継続します。

#### (4) 研究結果の発表

今年度は予定ありません。（H27年度に予定）

#### (5) 補足事項

- ・研究会の開催：会合は月1回（18:30-21:30）、年合計12回を原則とします。

### 2) 情報システム信頼性研究会（主査：松尾谷 徹）

年間6回（5月、6月、8月、10月、12月、3月）開催します。日程の詳細は未定です。

内容については、多様化する情報システムの実態と最近の研究動向から選んでいきます。主なテーマ案は以下の通りです。

- 情報システムの信頼性情報に関する研究
- 情報システム関連のステークホルダーに関する研究
- 信頼性、安全性の検証技術、特に静的解析やシンボリック実行
- プロジェクトやチームによる影響の研究

### 3) 信頼性試験研究会（主査：松岡 敏成）

信頼性試験研究会は、今年度8期目（通算15年目）の活動を継続します。

主たるテーマは「効率的・効果的な信頼性試験の追究」（数と時間の壁への挑戦）

具体的な取組内容は、昨年度更新申請時の活動テーマの継続

(1) 「信頼性試験研究会活動報告書の作成」（web掲示等での共有化を検討する）

- ① 部品選定のための、効率的な信頼性評価手法.
- ② 電子部品ごとに、想定される故障に対して必要な信頼性試験項目を、事例として掲げる.
  - ① 電子部品の信頼性試験結果を、機器の品質保証へ活用する事例を掲げる.
  - ② 加速モデル選択手順にも触れる.

(2) 信頼性試験「よろず相談会」

研究会6回のうちの1回、もしくは電子情報通信学会との共催行事において、研究会委員以外との情報交換会の場を設け、他活動団体との連携の中から、研究会活動としての研究テーマと新たな人材の発掘を図る。

<成果報告>

- ① 研究報告書の作成（期末 発行予定）
- ② 秋季シンポジウムへの参加

4) 要素技術安全研究会（主査：川島 興）

“人とロボットの共存のための安全要求事項 ISO 13482, ISO 10218”

生活空間で使用するパーソナルケアロボット、工業環境用である産業用ロボットのどちらも、人とロボットが同じ空間で安全に活動することを実現しようとしています。人に直接的に関与する機器への機能安全の適用の機会は今後も拡大が見込まれます。

両分野の規格、ISO 13482（パーソナルケアロボット）、ISO 10218（産業用ロボット）の機能安全要求事項、及び IEC 62061, IEC 61800-5-2（パワードライブシステムの機能安全）、ISO 13849-1（機械類の安全関連部）等の周辺規格との関係の精査し、人とロボットの共存のための機能安全要求事項について理解を深めます。

また、昨年同様、安全に関するトピックスを題材にディスカッションを行い、知見を広めます。研究会の開催は、4月、7月、9月、11月、2月の計5回を予定します。

5) 故障物性研究会（主査：土屋 英晴）

前年度と同様、例会を年間6回（偶数月第4週金曜日、13時～17時）開催する予定です。会員増や活性化が継続的に進む研究会の方向付けを適切に行い、更に大きな成果を出せるよう活動していきます。そのために、特に下記を重点的に実施します。

- (1) 研究会が目指す姿と会員の意思を尊重して、時流に相応しい研究テーマに取り組むことを目指します。
- (2) 専門性の高い講演や会員相互の連携による研究を広めていきます。

(3) 「信頼性学会ホームページ：故障物性研究会専用サイト」の運用レベルを高め、資料の共有化と活用を促進します。そして、それらの資料を集約していきます。

(4) 活動成果の一部を外部に公開し、研究会活動を広報するとともに新たな情報収集や会員募集に努めます。

具体的には、昨年の公開内容（電子機器の構成要素である材料（はんだやプリント配線板）や電子部品に関する問題を、主に安全性から捉えて故障メカニズム・原因や体系化した解析技術などを公開）を踏襲して、現場で起きている事例を更に積み上げて、「信頼性学会秋季シンポジウム」での発表や投稿などで公開する予定です。また、近年の研究成果をまとめた書籍の発行準備を開始します。

#### 6) LSI 故障解析研究会（主査：二川 清）

2014 年度は前年度と同様、12 名で年 2 回程度、研究会を開催する予定です。

#### 7) Lcc (Life Cycle Costing) 研究会（主査：門奈 哲也）

##### (1) 研究会および講演検討会

原則として月に 1 回、金曜日の 18:00～20:00 を定例研究会とし、日本科学技術連盟の会議室を利用し、月例会と講演会の 2 本立ての開催を継続いたします。

学会・業界の実情 調査を兼ねて、独自の Lcc 関連の調査研究及び導入実施している実務者を招いて話を聞き討議、交流を図ります。

##### (2) 発表会参加

学会の主催する発表会に参画し、研究会報告を兼ねて調査研究の状況報告と Lcc の工学的意義の調査研究を発表し、学会員との検討の機会を設けます。このプログラムの理解啓発と併せて新メンバーの参入を勧誘します。

##### (3) 研究目標

- ① ライフサイクルコストのモデル化の研究を行います
- ② ライフサイクル コスティング導入のための産業社会基盤、組織管理、技術水準と支援、人資源、等の必要諸環境条件の研究を行います。
- ③ 製品コストから社会コストへの展開を検討します
- ④ 国際規格の改訂に関する支援

## 9. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し、以下を審議します。

1) 2013 年 1 月号から 2014 年 12 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。

2) 第 22 回春季信頼性シンポジウム（6 月 23 日）と第 27 回秋季信頼性シンポジウム（11 月 19 日）における発表論文の中から、優秀賞 2 件と若手奨励賞 2 名を選定するための審

議を行います。

- 3) 2014年1月号から2014年12月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。

## 10. 関西支部

関西地区に在住する学会員のために、次のような支部行事を行う予定です。

- 1) 講演会 3回程度 広い分野の方々からの講演を計画します。
- 2) 見学会 3回程度 各種の企業・研究機関などを見学できるよう計画します。
- 3) 協賛行事 1回 関西地区開催の電子情報通信学会信頼性研究会を協賛します。  
開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。

## 11. 本年度の主な事業の予定（再掲）

- 1) 第22回春季信頼性シンポジウム 2014年6月23日（月）
- 2) 第27回秋季信頼性シンポジウム 2014年11月19日（水）
- 3) 第37回年次総会 2015年5月（日時未定）
- 4) フォーラム・レクチャーシリーズ2回，見学会2回
- 5) 各研究会
- 6) 関西支部行事  
開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。